



関ヶ原軍記
三編九三
九四

へ遠13
2207
42



門八遠 13 特
 號 2207
 卷 42

池清

園ヶ原軍記二篇卷之廿三

目錄

- 一本多三孫忠膏中候きの事
- 并鴻津父子再三秀家以命乞
- 神長法師義深の事
- 一洛中乱始根藉次御制禁の事
- 并伊奈備前 福鴻刑部喧嘩の事

和漢

貸本所

東京牛込細工所

誠光堂

池田屋清吉

凡士濃工高とも夫々の職分家業を固て持用の器物を言ふ
 今日と管心夏世畧一般の然るに近世字本の巻中小解り自伝
 可也種種の書入又ハ秋之覚來るき本偶ハ感見甚き
 男女の陰癖を画き君臣父子の中やう面と赤め合事
 同く多ク是第六必竟一時の興小系しての戯意やんハ併
 其職分は道具ハ疵付りハ僻とあり著述拙く筆者の誤り
 何れも只言語と云く其遇ちと各免卷中の戯画樂書并繪
 池田屋清吉は是と歎然不復得一固て素代りて諸君子所あるの爾
 磨石山人識



関ヶ原軍記三編卷之廿三

本多三孫忠常（ちやう）ノ事
并崎澤父子（さい）再（さい）ニ秀家（ひでゆき）ノ事
神表（かみ）法（ほう）義（ぎ）流（りゅう）ノ事

去程（きょ）ヲ浮田中納言秀家（ひでゆき）ニ西（さい）
山（やま）ノ瀧（たき）源（げん）ノ事
永（なが）ニ其（その）後（のち）ハ
つれと見（み）る人（ひと）ありと見（み）る

在天志の地しるれきと人惟り
ともあつて、秀家も薩摩の
下りて居るとの事、沙汰惟り
も足らりその評判、細曲一島の
風吹あり又そのごろの薩摩
藩止ありとありその時毛有て
細曲より薩摩を依り
内府公も大いなり所立振あり

井伊直政 本多忠勝 柳原
康政 大久保忠実 本多正信
等々 所前にはいれぬ所
おの藩忽のりしとやりのり
浮田秀家も薩摩の國に居り
少きつゝこれ 予と歎き
も定めて子細ありこの条本
多の藩をとりしと

予^{これ}直^{ちか}子^こ乳^ち唯^{めい}ま^まさ^さる^るり^りと
作^{つく}せ^せ有^あり^りく^く別^{べつ}ち^ち因^{いん}人^{にん}同^{どう}あ^あり^り
白^{ちやく}洲^{しゅう}一^{いつ}引^ひ出^でま^まを^を毛^{もう}沖^{おほ}津^つ代^{だい}流^{りゅう}
も 御^ご前^{ぜん}手^て列^{れつ}ま^まの^のと^とま^ま
本^{ほん}多^た中^{ちゆう}務^むを^を捕^と大^{だい}山^{さん}小^{せう}怒^どり^り慥^{しやう}あ^あ
里^りあ^あら^らむ^むと^とあ^あが^がて^てい^いら^らむ^む三^{さん}孫^{そん}
其^{その}度^{たび}ち^ちら^らも^も丈^{さか}丈^{さか}と^とい^いく^く
志^しる^るれ^れの^のぬ^ぬる^るり^りと^とい^いく^く

も^も名^なの^のひ^ひま^ま志^しる^るに^に大^{だい}の^のひ^ひる^るり^り
日^ひり^りと^とい^いく^く知^ちり^りと^とい^いく^く
清^{せい}和^わ南^{なん}の^の山^{さん}免^{めん}と^とい^いく^く
ま^まと^とい^いく^く盗^{たう}人^{にん}の^の大^{だい}と^とい^いく^く
の^の前^{ぜん}と^とい^いく^く子^こ孫^{そん}と^とい^いく^く
井^い作^{さく}柳^{りゅう}系^{けい}と^とい^いく^く
め^めん^んが^がく^くと^とい^いく^く
決^{けつ}計^{けい}と^とい^いく^く

景抄を置きて来りしはあつらん
秀家も置きて薩平に居るよし
浪進あり久しく浪人せし者
心腹も入らりしは叔父の
うらりうらり同姓の西河に地
人の手よの拭きせりし業
討く控へまわりのあつ白状
て死し解と信守する時本多

三條を赤坂ひさそくへ
むらさきとつけしぬりゆりの
うね竹しゆ徳りし中へまや
秀家と討く右刀系景お城
らるる人のうらりひりるん
志るるに只今浪田及が薩平に
下りぬといふたうるる
扱むしゆ中へ時

と世より下りいひたる中流を
内府公城出三跡が尺寸の的中の
孫子より一府より一府より一府より
此海陸故日領をえおつく存
孫り在りともありて此源を快と
尺より其一が也安徳仕りぬ柿
子の香胸養永次の大目此故
帝

内府公城出三

よゆり下りたりと其一能知り
この故出た刀と種とて徳略
城成り山系一え来
沖當泉此は徳代ありさるる
先承浪人せりりこのうさ
る下に浪雨りく難波の雨り
淳田泉を三子石とてありて
この名年素子安徳なり徳文

の恩^{おん}を山乃^{やまの}ごとくしつらく寸志^{すんし}
は名義^{なぎ}とて^と今^{いま}わかれ^{わかれ}たり
何^{なに}の^の^か急^{いそ}ぎ^ぎを^を形^{かたち}に^に飛^とび
よ^よ形^{かたち}ひと^と多^{おほ}くと^と將^{まさ}ら^らと^とも^もあ^あり
あ^あつ^つく^くや^やら^らる^る井^い坪^{へい}本^{ほん}後^ご柳^{りゅう}系^{けい}
本^{ほん}頼^{らい}其^{その}節^{せつ}の^の西^{せい}も^も大^{だい}い^いり
立^た後^ごして^{して}早^{はや}く^く西^{せい}傳^{でん}せ^せる^る討^{うち}く
控^{ひか}んと^と立^た後^ごく^く時^{とき}く

内^{うち}府^ふ公^{こう}も^も大^{だい}き^きなり^り西^{せい}義^ぎひ^ひあ^あつ^つて
あ^あつ^つを^をん^んく^くも^もさ^さら^らり^りし^しり^り是^{こゝ}
程^{ほど}に^に歌^{うた}され^れる^る夏^{なつ}も^も今^{いま}日^ひあ^あひ
是^{こゝ}へ^へ有^ある^る能^よく^く仕^しり^り之^{こゝ}に^にあ^あり
し^しり^り傳^{でん}本^{ほん}多^{おほ}く^く之^{こゝ}に^にあ^あり^り下^{くだ}る^る
者^{もの}乃^{すなは}ち^ち能^よき^き手^て本^{ほん}あり^り 予^よ葵^{あひ}
泉^{いづみ}次^{つぎ}の^のち^ち刀^{やいば}が^が手^てあ^あ入^いり^り衣^い本^{ほん}心^{こゝろ}
初^{はつ}ま^まに^にあ^あり^りひ^ひく^く汝^{なんぢ}ら^らが^が傳^{でん}畧^{りやく}も^もあ^あり^り

されより梅人おこるる忠義感ずる
あつり汝ら又信代ありのあつり
是よりい 予より忠節と
是よりい 予より忠節と
七十三才を死去せりあつり
そ子も弓矢も通達也一は仗義
とぬく勤めりは時時津多摩
既美公あつりびり怒父龍河もお

この年 作務を立滞を仗者と
して

内府公一

らる振る近頃不届事子孫ある
鴨津が中条ありはあつりむすね
このさび冥ヶ原を幸き執るひ
しあつり忠の事とばりあつり
も中一とて只浮田合乞の
あり叔秀あるり薩ヶ原で迎

下り深く頼る糸一命とば物々
らん糸手糸頭はたも生糸人
とも何の役も立やさざるもの
あきくは乞ふ極く
御免哉

顔ひきまるとの役者之乞の除り又
不届き子万有の中分取龜角
此 作出されも又時時も
印くは筋也之難儀はるや又

うううび薩島より中紙一ける
越あいのく不届きありさそ
ふのうび浪部少傭が送人仕るは
秀頼の丹下知中心得めて金貨
又七席は在大板仕り糸をとも
不届き子実ヶ糸之所筋仕り
不届き子由ゆ又七席の逗養
中分取糸取之唯新と改名

侍り孫修理左衛門尉忠家督と侍り
中比 御免地蔵りゆりゆり
明年百連上洛侍るべし
ニケ本願お遠あき
御来市と下さらべし又秀家
の旨飛下一命とばし助け下
さらべし
より叔もふ届ふ年臨津がや

奉りては身代致しむと知りむ
と中報しる奉りもあげさる
中分りれといづきも洋紙して
いそ宛臨津と御追討まきや
と伺ひ奉りよ
内府公乃思し百々又格別よて
臨津事孫忠家督とせん
いふゆり白備あり又冥々奉り

執心とら矢の智心も有
ま事之又浮田秀家更
予つて一氣に之に此度送
の棟梁と放くこの

家康が領を重く加判の利長も
牒し合せば一所乃是悟取
逆絨と放其刑飛石田小物
安玉寺おと同飛とるべき

志くりとて在浮津家持
新ひ中へ依く死刑一統と看
めて遠流なり是よりその
御返言して助命せらる是を
浮津が膏散り初のごと
り之をたよりしに秀家ら
利長の妹婿ありし内室
在く助命せしと新ひ

ゆゑありともいふ所なく海田
秀泉を薩平の國より登りて
平岩主斗及び部けられしものち
夏別八丈崎へ流さるる叔鶴津父子
も今整年あり上洛して此礼
中らるるによりこの時本儀を
お遠く下され今も整昌
せり

洛中乱婚狼藉決御割捕あり
并伴索債あり 福山寺刑部
喧嘩の事

劫あり 徳川内府公を大
津三井寺に御宿陣の時徳育
より御怒候と申上る事
養育を永年たをたまふ事

陣織部 山口劫友集つおあり
近由をわかれ寺ののろろに群礼
度重なり加州の利長も大軍を
率してこのととろろなりきつめる
よつとく甚を思よる軍を充満し
て割さつとろろを洛中よ入く
混雑狼藉さつこのせり系部の
龜や角倉お市お三井でつと

来りて所聖候を中へ奉るこの
席 御目見へ 御身おて
内府公内府ね格つとろろの洛中
子お誓らぬさつこのやと
作せの時飛屋中つとろろん人
宮東の大家洛中近田よ荒満
仕して毎々一系中へ入り来り
乱婚と中へ種つとろろのゆね

ども高たかの店たなをとりて町人
を強えい候まうふりて斯かのてらまふ
おつりゆりて昔むかし一ひと信長公の
入い洛らく乃なててくぬるまふりて
ちやく 河下かした知るべしと
候まうらぬもあくるちりて律りつ子
は候まうらくるちりて此こゝ後人
よても中ちゆう魏わいあるし之これうねは是こゝ未

のちと 為軍たけつゝあるぞと 壺かま小
中の者もの切き取とり人ひとを申まをす叶かある
ぬぬ之これ候まうく 京部きやうぶの氣きや江え入い
来る時の者もの一ひとの店たな也又洛中らくちゆうに
も今いま千せん龜屋かめやをば町まち奉行へいぎやう流
より毛洛中けらくちゆう此こゝ者ものをまをすまをすまをすの
故ゆゑ也 家康公やえんこう一ひとに
迎むかへ候まうす特とく子こりて

予の曾く知るるところあり
忠臣刻石刻三ヶ條出あり
洛中乱始糧藉押置押置井
木おも切えりしと林割し
一條乃過り達又俄り陣屋
干 作海さんその陣屋に
堀と堀と法とて用りあり
外に往來と止り法武士洛中

入りしと林割しと收人し作
値前と法 作舟の口鉄
船船百人と舟あり又二条三條
の橋より松平新二席 彦代
源三席 小築又市あり
長舟の洛中此入口三ヶ所あり
是急度おもしろしその
上急ありする大坂の指子

きりしと有る重徳院の表の
柳原武敏を捕虜政青蓮院の
表のの本多中務を捕虜
内府公卿入洛中でおまはるは皆
小勢ありて子人半りあり
白根大坂より人殺しの次
もやまらんり又洛中れあき
お階ぐとあ御り部のごとく
お階ぐとあ御り部のごとく

寛仁乃河割法下万民安樂此
根え也極かに福徳大業の
一万余人山科陣は嬌子刑
部少輔を電定は系譜あり又
系部見物もせんともといふ
その借人予の別所氏部可畏
為大橋辰右衛門尾實石見
あり士卒の又十人報名百人

ぢりり石具一して二条の大橋
にけりける急ぐ御法度度度
在書名存さし一箇て一人もさ
さげこの時をやるも急出さ
馬場大橋衣場門をみおくは
地明りくくと叫りんを伴ふが
組の者若若く承知せん
内府公より乱婚割株は為性素

の人を割き一その度命あり
とり大橋咲くそ心好むる
事とりよりのうれしき乱婚を
まら者ありゆありこそまら福山
刑部少輔なり行連若る中
りども若く承知せんや
修及よそも通少命一そ飛く
通くんとあつば三井寺一りて

古井大船頭及の判形を取らる
屋より取りたききふ能てい叶ふ
まじり殿のよまの時千可思
女房中の竹ふも七の福崎家
よそ寄掛く馬越容易り寄
殿も法やあるとあるも込入
くれれば高儀前書下知して破心
松平下知書度しせよ

御下知あるまのちの壁く通す
浦に及んや是を御指ありと
中々らゆへ三刻の是程大六人
をくくくとおく交してらあ
屋うらむといの時千福崎が馬
とりた若芸を竹しも七の至人
の馬をな通さんとして急子押破
らんと伝え来三刻ののどもい

別^{わか}別^{わか}のり^り足^あ輕^{かろ}た^たま^まで^で健^たり^りあ^あて
何^{なん}条^{じょう} 内^{うち}下^か知^ち次^じ省^{しやう}く^く福^ふ崎^{さき}家^け
あれ^{あれ}ば^ば獲^と藉^{せき}せ^せを^をお^お教^{けう}せ^せと^とて^て錢^{せん}
貳^に拾^{じゅう}本^{ぼん}お^おし^し出^でて^て押^おし^しり^り
その^{その}次^じそ^そ足^あ輕^{かろ}組^{ぐみ}百^{ひゃく}人^{にん}斗^とり^り我^{われ}
者^{もの}と^とし^し持^もを^を振^ふり^りて^て難^{がた}り^り
ま^まる^るゆ^ゆへ^へ福^ふ崎^{さき}が^があ^あり^りざ^ざら^らし^し
二十^{にじゅう}人^{にん}降^{くだ}り^りあ^あぐ^ぐり^り年^{ねん}の^のま^まる^る横^{よこ}
二十^{にじゅう}人^{にん}降^{くだ}り^りあ^あぐ^ぐり^り年^{ねん}の^のま^まる^る横^{よこ}

予^よお^お倒^{たお}され^れり^りこの^{この}時^{とき}彼^か程^{ほど}病^{びやう}
の^の別^{わか}別^{わか}民^{たみ}部^ぶの^の勢^{せい}彼^かや^や喧^{けん}嘩^かより^りと
馬^{うま}に^に鞭^{むち}お^お志^し悪^{あく}り^り故^{ゆゑ}く^く山^{さん}料^{りょう}へ
遊^{あそ}ゆ^ゆり^り主^{しゅ}人^{にん}正^{せい}刑^{けい}の^の罰^{ばつ}より^りと
そ^その^の三^{さん}条^{じょう}の^の橋^{はし}を^を控^{かへ}り^り控^{かへ}り^り作^{しやう}業^{ぎやう}徳^{とく}宗^{しゆん}
寺^{てら}と^と河^か島^{しま}刑^{けい}部^ぶ少^{せう}輔^ほ及^{及び}と^と大^{だい}喧^{けん}嘩^か
成^な結^{けつ}お^おされ^れり^り今^{いま}刑^{けい}部^ぶの^の罰^{ばつ}
お^お教^{けう}され^れり^り以^{もつ}て^て孫^{まご}子^こあり^りと

其の後の見分こぼりとて中より
福崎ふくさきとて大いなる怒り我われ所命しよめい哉
極きまつて此こゝにび冥みやうヶ原げんの教しゆひ小
先手せんてと放はなく幸さい起おこ合あ致ちと変かへ
くわもやとて子こ孫そんと追おも
後ご業ごうと名なふあるりこの人ひとを
百年ひゃくねん目めちうりいぞく作しやう事じあめ小
目め小物せうぶつ見みせんと馬うま子こ打う撃げきとく

陰かげ城じやう門もんさきけ新あたら又またれどくし
強つよ出でまき吉きち村むら又また左ひだりの是こゝと見て
自らみづかり押おしられつどけくと
るふ赤あかのり長なが刀やいばと以もく志ま先まへ
く欠かいど次つぎ子こを福崎ふくさきが衆しゆ人ひと
等らの衆しゆ衆しゆと八やち子こ余人ほかのひと赤あか
出でたり油清あぶらきよ

冥ヶ原軍記三編巻の亦三段油清

池清

関ヶ原軍記三編卷之廿四

目録

- 一 三條橋詰大喧嘩の事
- 一 井伊孫堂 福嶋の陣の事
- 一 井直政 福嶋決着の事

池清

園ヶ原軍記三篇卷之廿四

三條橋造大喧嘩の事

并仔奈値あさる橋造決行是

く事

曰く三條の橋より福時刑部が

口邊を唯飯初めり之に

支方一処より人あり大騒動

予乃よその時井伊屋堂の友
將戴判して尚ほ徳を以て
のち福崎正判別訴之度予
及んで

内府公成機

婚嫁しつゝ福崎が強訴を
法を以てしりしてお捨を
仍て正判懐りしりして
山科の陣と引拂うるに
堪回

ふ氏一朕も御極まる此の
件も徳を以て熱傷してしりし
て下定しつゝ徳を以てしりし
ておせしんばも
友を以ておあわくるに又も
指くものえりしりして
碇の陣に入るに自官を以て
正判も大まお袖く居候る

三井寺より来りて以從^ことす
りくもり 肉度^{にくど}なり

對^{たい}し有りての毛^け既^き殊^し畧^{りやく}あり
安^あ瘥^{しや}は佐^さ後^ごの直^ち刻^{こく}終^{しゆう}りて
終^{しゆう}業^{ごう}あり終^{しゆう}れども元^{げん}和^わ六年
年^{ねん}のりて福^{ふく}壽^{じゆう}永^{えい}く終^{しゆう}り

西^{さい}書^{しよ}よ回^{かい}く膏^{かう}者^{しや}くく有り

智者^{ちやう}のたむの換^か失^{しつ}あり
凡^{ぼん}そ膏^{かう}者^{しや}を獲^とぬ別^{べつ}強^{きやう}の
人^{にん}きうぬ^ぬ^ぬの身^みれ^れ
ろり^{ろり}み^みる^るりて^り我^がま^まん
し^して^てお^お毎^{まい}一^{いつ}つ^つて^て一^{いつ}執^{しやく}個^こ
あり^{あり}幸^{さい}れ^れ人^{にん}も^もも^も力^{りき}量^{りやう}を
人^{にん}の^の妙^{めう}を^を人^{にん}を^を見^みりて

一紙調子していひまうて礼
儀あり又智五人を百福よ
たのみありこれ大いなる
能あり行りそそ文智ある
ゆゑ故にぬ車も謀略
て事ぬといふるや
人紙一番してうねるに
智子部を事行りこの依

高しゆるる如那福勝正刻
此所のし平行り始終所を
害するに根えあうり叔
作奈後前書 えの名 三刻山中
八十八人の内古彦代
在も志長より代友 いんえん 殿
人平行り此始りそそ
奉恩文御年十九集の折

後別の守護今川義元と同
義元尾州一州發向の節
今川勢及軍捕獲向に於て
義元討死のせりこの時始り
く是時之概は入るに依り
旧好の徳長跡に是が如く
集りてこの是時願がん
おぬり徳却定の事西

ふ潤法にそふ新し人
徳らふは侍志願は天
ねんと算勅を過すして
地方功者ある志願奉
代官職を承り知り物ぬ
守役の事と司る天理三年
の事行職決りけりなり
依て武士の所を十六番

嫌きらふ存ぞん念ねん病びやうも生な心こころ別わかり
て武ぶ勇ゆう人ひと也なりとんんを
却かへ乃すなは如ごとく徳とく物もの既すでに如ごとく
之これ有ある娘むすめ孫まご代しろ友とも職しやく放はなす
して南なん時じ復たがあまよふ又また願ねが成なる
一ひと是これ輕かろどもと却かへるらと
有ある門かどの代しろ友とも職しやく却かへ定さだ既すで也なり
又また却かへ也なり代しろ友とも其その身み

貞まこと信しん一ひとて忠ちゆう節せつありその
人ひとの忠ちゆう節せつとば子こ孫そんよ
節せつ守まもらるら存ぞん念ねん存ぞん念ねんのせり
柳やなぎの心こころ乃すなは遠とほくして娘むすめ孫まご
代しろ官くわん職しやくの却かへ定さだ乃すなは難がたれ難がたく
して武ぶ勇ゆう人ひとありとる子こ孫そん
あり凡たゞそ武ぶ勇ゆう人ひと忠ちゆう節せつあり
是これ不ふ止とどまるらとるら角かく也なり

右記此年(あ)の兵(た)死(し)り(り)
口(く)々(く)の(の)あ(あ)り(り)も(も)志(し)實(じつ)
成(な)る(る)の(の)あ(あ)り(り)も(も)ど(ど)も
唯(ただ)右(みぎ)廊(りやう)を(を)命(いのち)と(と)推(お)す(す)所(ところ)
あり(り)の(の)せ(せ)つ(つ)後(ご)前(ぜん)を(を)大(だい)
志(し)を(を)命(いのち)と(と)推(お)す(す)所(ところ)及(およ)ぶ(ぶ)所(ところ)
所(ところ)は(は)深(ふか)く(く)その(その)志(し)を(を)せ(せ)り(り)と
そ(そ)の(の)ゆ(ゆ)え(え)に(に)子(こ)孫(そん)も(も)怒(いか)ん(ん)

昌(あ)ら(ら)繁(ひ)

去(こ)程(ほど)ふ(ふ)福(ふ)崎(さき)刑(けい)部(ぶ)少(せう)輔(ほ)を(を)志(し)定(じやう)へ
多(た)崎(さき)成(な)る(る)ん(ん)と(と)て(て)三(さん)條(じやう)大(だい)橋(はし)へ(へ)是(こ)り
し(し)と(と)あ(あ)り(り)し(し)倭(わ)前(ぜん)を(を)志(し)す(す)所(ところ)と
あ(あ)り(り)し(し)通(と)る(る)所(ところ)を(を)破(やぶ)り(り)て(て)再(また)
三(さん)條(じやう)乃(の)橋(はし)成(な)る(る)を(を)破(やぶ)り(り)て(て)再(また)
ん(ん)と(と)し(し)ら(ら)る(る)所(ところ)倭(わ)前(ぜん)を(を)志(し)す(す)所(ところ)と
是(こ)り(り)て(て)三(さん)條(じやう)乃(の)橋(はし)成(な)る(る)を(を)破(やぶ)り(り)て(て)再(また)

大無二母三子 持を四め振本
持りて五件六蕪り七なる有福
刑部が御切侍ひ大も大ひく
終る立しとく 蕪りこそ
られお倒さとして 遊ばはせ
大橋殿大事の大小子りり
まらや 粮藉御くを竹も
七も 福海泉の老老と持依子

まら法や みるると二天あすの志
刀と振持く 是後或人切依七
より三刻のりの大それを見く
流石千代傳代のりのおり
是のなるゆ 是の 毛粉縁せ
ま推糸毒の働あうれ 築城打依
より八十人なるりり
出向ひし急城撤く 追名ゆく

大橋辰右衛門の大兵衛とて人
知れしる常士あるべし八音あり
おのむ梅とて四六十本切折り武
三十八人子とて負せし梅が
み子放く既手危くく足
しとてあよ不思方務るころ
利ころりのとていやく大勢
命け立るむの御あ放り難し

とていやくとていやくと
矢声とて扱くるると一とて
うけ登横手のり破り既五二十
余人お殺され四方八面り敬
既し既し圓を破きんとて
子作事後あきこの時をみ千
石蹴蹴しとて来武常此人あり
福海が衆人を推しあありと

組下あ〜びお下人下知
接連〜福崎日野と遊む
地は〜ある大橋辰左場の不
女下知して家村士雑人紙を
めて切むとぶお代未の
喧嘩あり地は〜吉村又
大桑つ兵喜騎子の所へ
〜白川町と馬北とあ〜

このいさあひ下長刀とる
首下桑〜大喜の事大お徳
ちが〜出古刀に〜せん
宗〜欠入〜向あものな
の機織〜お屋〜
高甲とお破〜大屋
人藤伏〜是〜不
大橋辰左場つと福崎

泉人并びに足控木幣なりと
ゆゑに固の声をとらゝ切あつる
ふ作宗徳前さか足控有強立
らんゝ二条此方一途走りこの
新中へ抱へ馳し志をうく
志りぞひくをうく
柳原藤政千お法一屋がて
又追拂りんと足控難人哉

浦より作宗を川向ひに小橋の
方へ走りんで強抱用意は此
七河福清左衛門右衛門馬次
飛して強来りこの所を御
破れと下知しり心持より
と表者ども寄りきて坊の縄
目と切解あつる心
破多志と千城素れおとく

あり今ハ性来年々々々易
福嶋森ノ踏る武者とあるは
手ヶ〜に留ても足らやとを
まとの為者友入六十人三条
此橋の上決海りり〜伴作
佐前書り〜所を中〜三条
小橋決海り執〜福嶋
池田もせ〜
御下知決書

た〜坊と押破り〜狼藉者
を赤拂〜下知らる社〜
何れ殊施三四挺法も立る〜
一時赤赤〜又〜と進撃
うらまら故既手橋の上決海り
を〜そのた又六十人〜
倒され〜目前〜死骸決海り
〜是〜福嶋が先手

ろ一寸も多みぬ結く素肌
よそのありそ飛子おらむ深
より此良吉村又右場つ可了
女飛等もころり利ころ常士
よそのそぬるるばまへそ極あり
中山科より鉄炮来るまろく
とそも深りそり橋あれを
門のせとそりの坊く結ころ竹

たどそ集め竹葉つころりて是
城うづまつも深りれを矢玉の
極く中らとそりそ流石り
竹葉るれを矢炮を起し
押ころり吉村が備束と天晴
叩者乃武者るりそ感せぬの
とそそりらん去んばまら
竹葉採用定しとそらん

押寄すら形勢の軍に務負仕寄
子りききしも遠り福崎が軍
会たのい多し重なりて七八
子人河系ありて千志うまん
してあせまのたよりと失るひ
なり

井俣 度堂 正別まきりの陣ぢ来る夏

兼 善政 福崎ふさ以者もむる事

叔をけ席ちや重儀しげ港の表うら千ち居
合せある柳系やなぎ康政やすまさを三条の鏡かがみ
瓶びんの音ねをききしとや三条さんじょうあり
るあり進子しんこ勢子せこ余人よりのひと表
空之條そらのじょう河系がけあり柳系やなぎの表うら軍
とわおりのとらわぬ鏡かがみをきき

是程千々々皆々素肌すゐまで
高居たかの馬うま市いちとさう一いつの市いち
柳やなぎ出いと青蓮せいれん院いんの裏うらりの
市いち多た心こころ勝かた子こ余あま人ひとこれの馬うま市いち
さうりり一いつと一いつ条じょう此こゝ河か東とう一いつ柳やなぎ
出いとさうさう二ふた条じょうの河か原はら越こえ後のち
せむ柳やなぎ系けいがる市いち見みくきり又また
作つく事こと値ひあさる市いち多た柳やなぎ系けいが

ある市いちと見みく大おほきり力ちから
と坊ぼうさりや味あじうさの左ひだりちより
此こゝ時ときありと一いつ同どう子こ鏡かがみ抱かかりち
まゝ柳やなぎ系けい康かやう政せい是こゝと見みく扱あつかち
二ふた条じょう乃の冥みやうと破やぶり一いつの狼ろう藉せき者もの
あり是こゝ福ふく崎さきが我われ修しゆぬ一いつ
此こゝ分ぶんとありは福ふく崎さきが柳やなぎ
うさありて作つく事ことが冠かん目め前まへ之の

殺^{ころ}めんむ^むやう^{やう}に^にて^て風^{かぜ}
の^の勢^{いきほ}は^はら^らが^がと^とく^く牛^{うし}料^{りょう}々^々三^{さん}條^{じょう}
乃^の川^{がわ}向^{むか}ひ^ひ一^{いつ}押^{おし}舟^{ふね}く^く伴^{ばん}幸^{さち}舟^{ふね}
ち^ちう^うく^くと^とく^く銃^{じゆう}砲^{ぱう}と^と打^う是^{こゝ}ら
本^{ほん}多^た手^て押^{おし}續^{つづ}ひ^ひく^く地^ち形^{がた}自^{みづか}り
ま^まで^で千^{せん}両^{りやう}舟^{ふね}より^{より}銃^{じゆう}砲^{ぱう}二^に百^{ひゃく}挺^{てい}
地^ち立^た毎^{まい}へ^へく^く志^しを^をこ^こり^りに^に打^うま^まる^る
此^{こゝ}七^{しち}川^{がわ}三^{さん}条^{じょう}乃^の橋^{はし}より^{より}行^ゆ来^きの

新^{あらた}河^{がわ}福^{ふく}鴻^{こう}勢^{せい}橋^{はし}く^く急^{いそ}く^く限^{かぎ}
小^こ引^ひ退^{たい}く^く船^{ふね}よ^よお^お船^{ふね}の^の夜^よ竟^{はら}
乃^の常^{じょう}士^し吉^{きち}村^{むら}大^{だい}碇^{いかり}下^{した}尾^び冥^{めい}
長^{なが}尾^び亦^{また}二^に十^{じゅう}人^{にん}斗^{たう}り^り行^ゆ来^きの^の新^{あらた}
千^{せん}両^{りやう}舟^{ふね}より^{より}千^{せん}両^{りやう}舟^{ふね}の^の勢^{せい}
處^{ところ}く^く其^{その}上^{の上}皆^{みな}く^く幸^{さち}執^とる^るく^く
味^{あじ}方^{かた}此^{こゝ}銃^{じゆう}砲^{ぱう}を^をい^い舟^{ふね}よ^よ一^{いつ}挺^{てい}も^も来^き
ら^ら心^{こゝろ}備^ひへ^へ千^{せん}両^{りやう}舟^{ふね}の^の勢^{せい}

先一具退ひく是後立くは
三条の橋斗りしも限らば
此城原より河原越りつらへ
ありとも押切に何ぞ是
あらん中だんく一領志あり
に竹束とつま志りぞ見れ
福崎大ひり怒りて執事此者
どももきでく二百余人お殺され

より竹束が分際平の推案之
其之本多柳原おが
ふしそそあねいそく
糸お破つて捨てさるり急
ぶ鎧袍を建よと下知る
のさるのさるこれさるあり
既車双言文浩く白船合あり
はらふはらふの小船とらる本多

柳原あり又一旨も福嶋の太
軍あり竹指子痛またり
河とんと片崖をのんで居り
此處の女官とあり小軍切者
して中ら不きとて致し
女難く難混まは時本多柳
系お徳して福嶋より之仗者
ありくや入り今日あり

是傳一々天慶此不業とや中
原と既事福嶋度は候
内府公一討し今又却の如く
此敵討致さるるに於て
りし柳原の山原は是るに於て
の已後三井寺一作立らるべし
よとて中ら来る福嶋怒りて
此女官乃此より取り返し去

那^なが^がく^く播^は者^{しや}求^{もと}人^{ひと}教^{しやう}多^たく^くな^なれ
中^{ちゆう}の^の在^ある^るの^の送^い根^{こん}を^を伴^{ばん}ふ^ふ侍^{しやう}
前^{まへ}も^もあ^あり^り候^{こう}く^く侍^{しやう}前^{まへ}も^もと^と渡^わ
さ^さん^んゆ^ゆな^なま^ま子^こ建^{けん}退^{たい}者^{しや}も^もと^とさ^さぐ^ぐ
た^たも^も那^なく^くゆ^ゆゆ^ゆの^の所^{しよ}を^をば
交^{かう}して^{して}冥^{めい}夷^い中^{ちゆう}の^の返^{へん}答^た
よ^よう^うい^いゆ^ゆく^く炭^{たん}く^く足^あ恒^{こう}踐^{けん}
出^いして^{して}侍^{しやう}く^くり^り仍^{なほ}く^く行^{こう}とも^も

ま^まぐ^ぐき^き振^{ちん}わ^わく^くと^とる^る西^{せい}へ^へ井^い侍^{しやう}
直^{ちゆう}政^{せい}急^{きゆう}い^いで^でま^ま侍^{しやう}福^{ふく}臨^{りん}の^の陣^{じん}は
欠^{かけ}来^{きた}る^るも^も後^ご堂^{どう}を^を氣^きも^も弛^{しな}来^{きた}り
西^{せい}刻^{こく}く^く對^{たい}面^{めん}して^{して}中^{ちゆう}の^の是^{ぜい}班^{はん}
決^{けつ}論^{ろん}せ^せん^ん先^{せん}督^{とく}付^つ言^{げん}と^と入^い道^{だう}ら^られ
も^も伴^{ばん}ふ^ふ如^に来^{きた}る^るも^も西^{せい}の^の口^{くち}お^お手^てを^を
是^{ぜい}く^くと^とい^いく^くを^を福^{ふく}臨^{りん}ゆ^ゆり^りて
さ^さぐ^ぐる^る氣^きも^も弓^{きゆう}矢^{しや}の^の修^{しゆ}法^{ぽう}

決忘御せらまはし 先々高り
惟人をもせよの衆人 胎母亦教
されまはしむ法接つてもる
お尋らべし 尚此教を橋法
ありまはし 修見接まはし
いあり 怒りのありあり
此節 井伴衆此を長木候古伝
を起功して 智謀深く本多

柳原直人の軍令を福清次郎
子交く 伴衆をわくまはし
とまはし 井伴有と知るまはし
退くべきありと衆の 直政が
金乃 撰え乃馬市を橋法
抑してまはし 古をせし
是井伴直政が 壽地来り
初より 本儀を人教せしむる

来りし所今侍るものと斗りし
有り勢はどくく康政是を見
軍の功者故の人あれむさす
軍政を福勝が陣より定め
く惣便する所の海べりそ
浪も町小路より入る実を
向ふのそづめよの勢き人
り此時軍政を正刻より向て

某の修秘をおまやま条
先此度より会士は去りそげ
去て小作も退去して柳系
本多乃女勢も足中よりお
手もなきも後あれり有り
とや！後く福勝も是れよ
及ぶん軍勢も氏山料よ
引退くこの時を待て候事

伎前より又増と法車一初めの
おとくく書下紙接くく瓦盤紙拂
ひ悉く掃除していつく
東政改めたり叔父より伴ある
は旨と委細年三井寺（泥を
足井伴 及堂も山科と改陣
はまの本多柳原もお修り
えの陣より志りごひくこの

西よりも委細年三井寺
怪をよ侍と帝有毎の大
喉あり 油漬

関ヶ原軍記三編巻の廿四 油漬

